

No16 安心できる居場所づくり

意欲がなく反抗的な態度をとるなどの児童生徒に共通して言えることは、自信がなく自分に対する評価が低いということです。そのため、少しの失敗をとてもしやがったり、自己防衛の行動（反抗的な態度）に出でしまったりしがちです。

自信がもてない原因を分析すると、活動の内容や手順が本当に分からないのか、ちょっとだけ聞いたところで「いやだな」とか「めんどう」と思い込んでしまうのか等、活動そのものに関わること、あるいは、一緒に活動する友だちとの人間関係がうまくいかない等、対人関係に関わることなどが考えられます。

いずれにしても、学級は、安心して学習できる場、自信がもてる場でなければなりません。

今回は、学級の中にいる個への支援により、安心できる居場所づくりについて特集します。

1 「安心」の基本・・・「みんなから認められている」 多様なあり方・個性を認め合う学級文化に

「速い・遅い」「できる・できない」等、一定の価値からの呪縛をゆるめる。
手助けし合うことに価値のある学級に。
・学ぶ権利を全うするための教員からの手助けは権利。
・平均的なものだけが大事ではない。

<子どもへの話し方の例>
「人はだれでも、自分なりのめあてをもって一つ一つのステップをクリアしようと頑張っているよね。やさしい心を持つとするとステップはすぐクリア出来ても、スポーツ上達というステップはゆっくりでなければクリア出来ない人もいるよね。今、大人の人で、すぐカーッと来て人を傷つける人がいるけれど、その人は、『怒りをコントロールするステップ』をちゃんとクリアしてこなかったんだね。いろいろな大切な目標があるけれど、一人一人のペースでコツコツとクリアしていこうね。」
「よく見えない人は眼鏡をかける。聞こえにくい人は補聴器を使う。覚えるのが苦手な人はメモを取る。というように、手助けがないとどんなに頑張ってもクリア出来ない場合もあるよね。頑張っても出来ない部分があったら、必要な手助けをして勉強しやすくしてあげる。先生はそんなふう一人一人を大切にしていきたいな。」 等

2 学級全体で取り組めるプログラム・・・サポートの必要な子を否定的にとらえない学級づくり

特別な支援が必要な子に対する支援の場面や量が多いほど、その子が特別な存在になってしまうのではないかと不安になる時はありませんか？

そんな時は、その子の抱えている発達課題を隠れテーマにした学習や、必要な習得を目指した意図的な学習をクラス全体でやってみましょう。
キレイなためのスキル等はどの子にとっても学ぶ必要のあることと思います。
<学級全体で取り組めるプログラムの例>

その子の成長課題	学級プログラムの例
・ キレイやすい	怒りのコントロール法（豆だよりNo8(2) 参照）
・ いらいらしやすい	ストレスマネジメント（リラクゼーション等）
・ コミュニケーションが苦手	アサ ショントレーニング 等
・ 感情表現が乏しい	感情表現を広げる工夫について話し合う 等



<指導のポイント>
多様な個性を認め合う文化が育っている学級と、そうでなく一律のルールに沿って集団が一丸となって動ける事に価値をおいている学級（どちらも意義のある学級文化ですが・・・）とでは、子どもへの説明が異なってくると思います。学級の文化をどう育てていくか日ごろから考えていきたいものです。